

IEEJ Industry Applications Society News Letter

電気学会産業応用部門ニュースレター 2004年10月号

巻頭言 「ニュースレターの発行に際して」

電気学会産業応用部門編修委員会委員長
斎藤 涼夫

ご存じの方が多いと思いますが、本年9月14日 - 16日に高松・香川大学で開催された平成16年度産業応用部門大会で、シンポジウム「D部門組織改善の新しい試み」の発表がありました。ここでは現在推進中のD部門改革が紹介されていて、主なものは以下の通りです。

- (1) 部門内は、「研究調査運営委員会」、「論文委員会」、「編修委員会」の3委員会構成。
- (2) 部門誌を純粋論文誌とし、「論文委員会」が担当。
- (3) 「論文委員会」は主査、論文幹事で構成。論文幹事は技術委員会との関係を強化し、担当技術委員会からの論文投稿を推進。
- (4) 論文誌編修の効率化などを狙って、エディタ制と電子投稿・査読システムを導入。
- (5) 「広報委員会」を「編修委員会」に統合。論文以外の記事をニュースレターとホームページに掲載する。
- (6) 技術委員会「共通技術委員会」と「応用技術委員会」に分類。柔軟な新設・終了を可能とする。
- (7) 「共通技術委員会」と「応用技術委員会」は、それぞれの活動指標を掲げ達成に努力すると共に、マトリックスの協力・連携で研究会開催などを推進。

ここで述べるニュースレターの発行は、上記(2)、(5)項に関連してこのD部門改革の一環となるものですが、ニュースレターに関連したこれまでの経緯と今後の方向性について簡単に触れたいと思います。D部門誌は関係者の努力により大きな問題もなく発行を続けてきました。しかし、最近になりD部門誌掲載論文数が激減し、数ヶ月間非常に薄いD論文誌しか発行できなかった、あるいは論文以外に掲載している速報性を目的とした記事が、部門誌発行3ヶ月

前の原稿締め切りという関係から時代と共に意義が薄れてきた、などの課題が見えるようになってきました。これ以外にも、電気学会としてSCI(Science Citation Index: 科学文献として引用される回数)の対象として登録されるような価値の高い論文誌を目指そう、それらに関連した電子ジャーナル化、英文論文誌の発行という議論を経て、D部門では「D部門誌を純粋論文誌へ移行しよう」という結論に至りました。したがって、これまでD論文誌に掲載してきた論文以外の種々の記事は、ニュースレターとホームページに移行することにしました。D部門改革はまだ着手したばかりです。全てのものが議論をしながら走っていますが、ニュースレターもその例に漏れません。ニュースレターというD部門にとっては新しい刊行物を発行することについては、使用言語、発行形態、掲載内容、発行間隔、編修体制などについて議論してきました。この結果、今月号のニュースレター発行のスタートポイントを決めてきたわけですが、その議論の内容については上記シンポジウム論文「編修委員会の改善」をご参照いただければ幸いです。今月号では、先ず「純粋論文誌とは分ける」というニュースレターの方向性を出すために、一つの論文誌の中ですが、構成を分けることにしました。今後できるだけ早い時期に、ニュースレターとして適切な分冊の形態に移行し、さらに内容を精査して改善を続けながら、D部門会員の皆様の求める声に応えていけるよう努力していきたいと考えています。D部門会員の皆様には、是非このような改革の議論に参加していただき、D部門誌、ニュースレター、およびホームページの質の向上につながるご意見をいただくようよろしくお願いいたします。